

COOP-JOSO News Letter

【特集：地域で行動し、発信する常総組合員】 我孫子の子供たちを放射能汚染から守る会
市に、県に、国に、そして学校に。働きかけで状況は少しずつ変化
ごく普通に、静かにつつましく暮らしていたはずなんですが

組合員の佐藤さんが我孫子でのこの一年の様子を送って下さいました。
佐藤さんから、「この報告書が原発事故の放射能に悩むお母さんたちの励みになるなら幸いです」「それにしても、普通の主婦の私がこんなことをしなければならぬのか…。ごく普通に、静かにつつましく暮らしていたはずなんですが…」と添えられていました。



●千葉県健康福祉部への要望書提出

孫子市長に直接要望書を手渡し、話し合うことができました。

それから市の動きは徐々に変わってきたものの、肝心な除染は一向に進まず、方針も示されない状況に耐え兼ね、10月27日に2度目の要望書を出しました。この要望書の回答は12月6日に帰ってきましたが、その内容は今まで市が行ってきたことと何ら変わりない内容でした。

●陳情の採択、さらに県、国へも

そこで12月末にこの回答に対する質問状を提出、その回答をうけ、さらに2月に我孫子市議会に対し2通の陳情書を提出、これは3月の市議会で採択されました。

その後も3月22日には国に対し、4月6日には千葉県に対し要望書を提出しました。この際にも議員さんのご助力で意見交換をする機会を得ることができ、直接私達保護者の声を伝えることができました。

こうした活動の間にも、それぞれがお子さんの通う学校等に対し、いろいろな働きかけを行うなどして、状況は少しずつ変わってきています。

私達は要望書を提出したことで安心するのではなく、これからも放射能に対する防御を怠らず、子どもたちを守っていきます。

そのために、常総生協さんが提供して下さい、どこよりもきめ細かく、低い検出限界で測って下さる安心な食材は欠かせません。要望書や陳情書提出の際にも相談に乗って下さいました。心から感謝しています。

我孫子の子供たちを放射能汚染から守る会
佐藤登志子 (T-4aコース)

ブログ <http://ameblo.jp/abiko-mamorukai/>

●このままでいけない、と

「我孫子の子供たちを放射能汚染から守る会」は、主に我孫子市に住んでいる子ども達の保護者や祖母等から成り立っています。

時々集まって日々の不安やそれぞれが得た知識・経験を語り合っていますが、普段はメーリングリストを利用して、情報交換をしています。メーリングリストへの登録者は100名強です。

この会の始まりは原発事故後、放射能のことで悩んで「このままでいけないから、まずは勉強会をしよう」と思った、市内で畑を営むお母さんのグループの一声から始まりました。

口コミやインターネットからの呼びかけで、数日後に行われた意見交換会に20人以上のお母さんたちが小さい子どもたちを連れて集まりました。誰にも相談できず一人で思い悩んでいた人や、学校や教育委員会等に向けあってなんとかしようとしていた人、よくわからないから情報を得たい人、いろいろな人が集まりました。

●子どもを守る要望書を市へ

その中にインターネットを利用して署名を集めていたお母さんがいました。そこで皆でその署名活動に協力して、要望書と共に市に提出することになりました。

この署名は我孫子市以外にも柏や松戸、流山、野田、鎌ヶ谷それぞれの守る会の人たちと連携して、全国から1万筆を超える署名を集めることができました。

これと並行して、家事や仕事の合間をぬって寝る時間も惜しんで、本を読んだりインターネット等を利用して情報を集めて、皆で知恵をしぼって要望書を作り、7月6日、東葛6市協議会とそれぞれの市に要望書を出しました。地元の県会議員さんのご助力により、我

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から1年
予断を許さない東海第2原発再稼働

組合員による県知事宛・日本原電宛

ハガキ作戦

【廃炉署名提出 県知事三たび不在問題】

わざわざ記者会見して弁明する愚

○「逃げまわる県知事は絶対に許さない」(生協組合員ハガキ)

●「逃げ隠れしたわけではない」(県知事 記者会見)

○「県知事と県民の対話集会を求める」(生協組合員ハガキ)

●「申し入れがあれば考えさせて頂く」(県知事 記者会見)

※現在知事と県民の懇談会、協議に入りました！しかし「定員30名・発言10名」との県側からの限定をめぐって混迷中



【6月燃料装荷、8月再稼働問題】

●「6月上旬燃料装荷、8月上旬定期検査終了」(日本原電)

○「拒否する」(東海村・村上村長)

○「生協との話し合いの時(3/1)住民の同意なしでは再稼働はできない」と言ったはずだ。東海も敦賀も再稼働は断念しなさい。」(生協組合員ハガキ)

●「6月燃料装填”未定”」に変更(4/28原電、自治体に提出した計画書)

しかし、使用済み燃料プールへの消防車からの注入配管は6月末完了させ、津波対策の「防潮堤」は今年度中に着工と。他方、過酷事故時ペントを余儀なくされて放射性物質を放出する時のためのフィルター設置は未定と。

【NEWS】4/28「脱原発をめざす首長会議」設立総会

東海村・村上村長リーダーシップ



「日本の社会は原発を持つべきではない」と訴える村上村長

4月28日、「脱原発をめざす首長会議」が設立された。東海村の村上村長、静岡県湖西市の三上市長らが呼びかけ人。全国64市町村長が参加。共同代表に選ばれた村上村長は、「福島第一原発事故の天文学的被害を見て、原発に見切りをつけなければと考えた。被害は福島県民だけでなく、茨城の農漁業者、子供を持つ母親たちにも及んでいる。野田政権の大飯原発再稼働の政治判断で、この国は情けない、決定的にダメな国だと多くの国民が思っている。その証拠に、脱原発の動きは衰えず、輪は広がっている」と述べた。

ごく普通の主婦として この一年感じたこと行動してきたこと



阿見町で一人から始めた活動をお話する泉さん(左)。小島さん(取手市 写真中)、稲垣さん(つくば市 写真右)

○小島さんからの報告

つくば市春日市民交流センターで開催された【一福島原発事故から1年ー 原発事故の実態から内部被ばくに向き合い、原発をなくす運動をどうすすめていくか。】のパネルディスカッションに、パネラーの1人として参加してきました。

パネラーの面々の構成は、小川仙月さん・常総生協 大石さん・有機農業者・被ばく労働者・原発廃炉や福島での診療所建設の働きかけをしている人、そして私たち常総生協関係者。

大石さんは常総生協としてどう向き合ってきたかをテーマに、私たちはごく普通の主婦としてこの1年、感じたことや行動してきたことを発表しました。

特に私は、国や県が意図的にとしか思えないほど、子ども達の健康管理をほったらかしにしている事を訴えました。

茨城県内の各地で自然発生的に発足した「放射能から子どもを守ろうアットマーク」等の総勢50あまりの団体が連名で県知事に提出した、お母さんたちの魂の叫びがギュッと詰まった「子どもの健康調査を求める要望書」に対しても、答えは「NO!!」なんですよ！

お母さんたちの恐怖心がこんなにたくさんのポリウムで1つにまとまり、こんなにハッキリした形で不

安を訴えても、子どもの体には指1本触れようとしていません！こんな事態が過去にあったでしょうか？と。

他のパネラーさんのお話の中で一番印象的だったのは、国鉄水戸動労書記長による鉄道乗務員の被ばくの実態の話でした。鉄道機能が回復することが復興への第一歩と考えられているため、今回の震災後も車両が多量の被ばくをしていたり、走行地域の空間線量が高いのにもかかわらず乗車勤務をさせられている。運行区間によっては一日の積算被ばく線量が15マイクロシーベルトを記録しても何の対策も講じられていないらしい。

その他、おなじみの小川仙月さんのお話の中で目新しかったのは、チェルノブイリ事故の時にベラルーシが他の地域よりも放射線量が高くなった原因の一つの話。放射性プルームが風向きでモスクワ方向に流れていくことがわかっていたので、その前に人工的に雨を降らせ、結果的にモスクワを救ってベラルーシがその犠牲になったとのことでした。



子供の健康管理を国や県が責任を持つことを訴える小島さん



事故から一年、パネラーからの報告を受けて、活発な質疑応答が行われた。真ん中に並ぶ常総組合員と大石。右端は小川仙月さん

この話を聞いて日頃から疑心暗鬼に陥っている私は、この方法で今回東京を守るために茨城が犠牲になったとかないよな～？と無責任な想像をしてしまいました。

この日話を聞きに集まった人たちは、純粋に情報を欲しがっているように見受けられました。隠された事実や、市井の真摯な声にも、残念ながらこの国のメディアは真剣に対応してくれていません。ならば私たちごく一般の住民が媒体となって訴えていくしかない！と、あらためて確信しました。

(取手市 小島)

○稲垣さんからの報告

パネラーとして「脱原発とくらし見直し委員会」でのパンフレット作成活動の説明と内容紹介をしました。

パンフレットの目的は一人でも多くの方に原発の問題や放射能汚染による危機を知って欲しいということ、内容は組合員の中で自主的に集まった委員会の皆さんと月1回打ち合わせ相談しながら作成したことなどです。

感想や印象に残ったのは以下の通りです。

■パネラーでJR東日本の労働組合の方からの話

常磐線の福島第1原発に近い広野行きに運行の若い女性車掌が1回の乗車で15μSv被ばくするため将来を考え担当変更を訴えるも却下、それどころか訴え後に管理職が線量改ざん疑い監視のためか毎回添乗すること。

汚染された事故車両を解体し使用できる部品を再利用しているが、その作業の多くを非正規雇用の若い労働者が行うので被ばくが懸念されること。どちらも企業姿勢を疑いたくなる内容でした。

また個人的見解だが福島の警戒区域の解除に路線を少しでも延ばしたいJR東日本が大きく関わっているのではとのお話でした。

■集まった方の質問と雰囲気

集まった年齢層はかなり高め、男女半々でした。質問は「また原発が爆発した時ヨウ素剤を服用するべき？その副作用は？」「つくばに住んでも安全か」といった内容。



常総生協の委員会でのパンフレットづくりをお話する稲垣さん

今回のパネラーはみな専門家ではないため各々の考えを伝えましたが、皆さんが不安を抱き、すがる思いで来られたんだなあと思いました。

また「新聞やテレビは信用できるか？」話が出たとき、パネラーの殆どが新聞やテレビは全く信用できず、民放ラジオや本やネットの情報を頼りにしているという点が一致し、「やっぱり」と思いました。

■小川仙月さんが講演会でよく聞かれるQ&A話

みんなの疑問や悩みは同じだなと興味深かったです。その一部を紹介。

Q「原発問題の温度差をどうすれば？」

A「おそらく原発を単なるビジネス(原発ある所はお金を貰って取引成立済と理解)と捉えている。実は危険だから都市部から遠くお金のない自治体に目をつけ原発を立地するという差別問題。しかし今や大企業は変わり身早く中小企業も脱原発ネットが展開されつつある。今後は原発のないまちづくりをみんなのアイデアで救おうと話せばどうか」

Q「茨城から移住したほうがいいか？」

A「私の感覚ではつくば辺りはギリギリセーフかアウトかも、しかしどう生き死ぬかの問題だから自分で決めるしかない」

(つくば市 稲垣)